

無憂樹

呼び声

令和6年6月号

浄尊寺

熊本市西区田崎

1-4-39

TEL・FAX

096-354-6530



6月は梅雨の季節ですね、蒸し暑い日が続いております。私も毎朝起きて暑いな〜とついつい愚痴がでてしまいます。そんな中で、ふと目をむけるとお供えいただいた紫陽花がきれいに咲いてくれています。この梅雨の季節だからこそまた色々なものに目をむけていきたいものです。当寺でも育てている蓮の花が咲き始めており6月はいっぱい咲いてくれそうです、皆さんどうぞお待ちしております。

先月は息子の運動会に行きま

した。これまでなかなか行くことができなかったのですが、今年少しだけ見ることができ嬉しかったです。暑さの中で子供達が力をあわせて頑張っているすがた、楽しんでいるすがたに元気をもらいました。多くの保護者の皆さんも来られて応援されました。当たり前かもしれませんが、これだけ多くの保護者の皆さんがおられても、子供達は誰一人間違えることなく「お父さん・お母さん」と保

護者の方々に手をふっている光景がありました。その当たり前前の光景にふと気づかれます。私達はいつから、どうやって「お父さん・お母さん」と呼んでいるのでしょうか。そこにはやはり親が私達に「お父さんだよ・お母さんだよ」と自分から名のりをあげて呼び続けてくれたからこそであります。子供も最初から呼べるわけではなく、先に親が呼び続けてくれたからこそ安心して「お父さん・お母さん」と呼んでいけるのではないのでしょうか。

浄土真宗では南無阿弥陀仏とお念仏申します。南無阿弥陀仏のお念仏は呪文のようなものでも、お願いするようなものでもありません。「念仏(南無阿弥陀仏)は親の呼び声、子の返事」といわれます。阿弥陀如来という仏さまは、この私を目当てとして、声の仏さま(南無阿弥陀仏)となつて、いつでもどんな時でもあなたと共にいるよと呼び続けて、「一緒にしてください」おられます。私も最初から南無阿弥陀仏とお念仏となえたわけではなく、そこには呼び続けてくださった阿弥陀さまのはたらき、大切な亡き方々の縁があります。そこに頭が下がるばかりであります。おりにふれては南無阿弥陀仏と返事をしていく日々をおくらせてもらいたいです。